

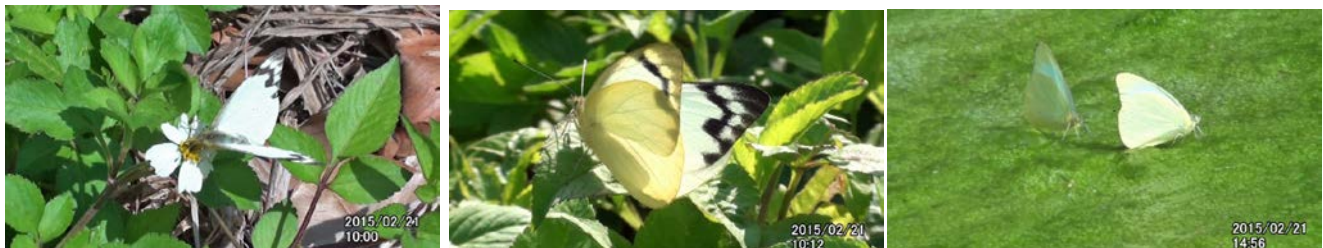
ナミエシロチョウとの初の出会いは1997年10月の石垣島オモト林道で、シロノセンダングサを訪れた個体を♂♀ともに採集している。このときは同じオモト林道で、1995年10月に訪れた二度目の西表島で初めて目にした♂個体の裏面の濃い黄色に、図鑑だけでは本当の美しさが表現できていないことを知った。台湾シロチョウの♀が飛翔中のところを捕獲し、さらに別の♀個体の飛翔も観察できて、台湾シロチョウが石垣島にも分布していることを知ったのだが、当時、竹富島での発生も知られていたようだ。



1995年は石垣島からの高速船で波照間島へ日帰りのつもりで初めて渡り、まずはナミエシロチョウが乱舞する光景に驚き、南ジャングル周辺にはリュウキュウムラサキ、メスアカムラサキ、アオタテハモドキなど多くのチョウが飛び交う光景を目にしたことから、自転車を借りた民宿「たましろ荘」のご主人に予定外の宿泊をお願いして、翌日もたっぷりと蝶タイムを楽しんだ10月だった。

Feb. 21, 2015：波照間島

妻が沖縄や八重山諸島に同行してくれるようになって、まだ二人で行けていない波照間島訪問を計画。2月の訪問は初めてで、どのようなチョウがいるのかよく分からないままだったが、最も多かったのがナミエシロチョウで、♂翅表の黒鱗粉が薄い低温期型をみる。♀は高温期とあまり差がなく、新鮮個体も多く見た。1995年10月に初めて訪れて、小雨の降る間でも林の



奥でスジグロカバマダラやリュウキュウアサギマダラが飛び遊ぶ様子を楽しめた、あの面影はまったくなくなったブリブチ公園の入り口に、苔と思える緑が目立つ小さな池があって、その苔むした池面で仲良く吸汁する2頭の♂が印象的で、遠くから撮影記録を撮る。